

熊本大学医学部医学科長 中村 公俊



この度、医学科長を拝命いたしました、小児科学講座の中村公俊です。医学科長は二〇〇三年十月に医学部医学科に置かれた役職で、今年でちょうど二十年目を迎えます。これまで児玉公道先生、竹屋元裕先生、赤池孝章先生、安東由喜雄先生、尾池雄一先生がそれぞれお勤めになりました。その間には、二〇〇四年に新臨床研修制度が開始され、二〇〇七年に旧臨床講義棟（階段教室）が閉棟し、二〇一二年には臨床医学教育研究センター棟が竣工、二〇一四年からCBT（コンピューターを用いた客観試験）とOSCE（客観的臨床能力試験）が始まりました。二〇一六年の熊本地震、二〇二〇年の令和二年七月豪雨、さらに新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、医学

部の講義や実習は大きな変更を迫られてきました。その中において、熊本大学は二〇一九年に医学教育分野別評価を受審し、メンター制度やTeam 100による学修支援、シミュレーターの導入や診療参加型臨床実習の推進など、時代に対応した医学教育の充実を目指してきました。二〇二三年度から、「熊本みらい医療枠」の学生が入学し、二〇二三年四月には総合医学教育学講座を新設し、吉田素文教授が着任されて医学教育の体制を再構築しているところです。

医学教育は大きな変革の中にあり、教員も学生も多くの課題への対応を続けております。特に二〇二一年の医師法改正によって、医学生は医師が行っている医療行為を行うことが法的に認められ、CBTとOSCEに合格した医学生は、指導医のもとで一定の医療行為を行うことになりました。また、医学教育モデル・コア・カリキュラムが二〇二二年十一月に改訂され、二〇二四年度の入学から導入されま

す。二〇二六年には、次の医学教育分野別評価受審が控えており、その準備を始めているところです。

肥後医育振興会は、肥後医育塾の開催による医学・医療の最前線の情報提供や、熊日すばいすの「元気の処方箋」、「子育て応援クリニック」、「医心伝心」などのページで県民への分かりやすい身近な情報提供を続けておられます。さらに医学研究・医学教育への支援、国際シンポジウム開催の支援などにもご尽力されています。医学教育における課題解決には、医学科教員や学生のさらなる対応はもちろんです。企画を実現するための物心両面の支援も必要になります。新しい医学教育、臨床実習へのサポート、学生の自主性とグローバル化を育てる取り組みなどに、引き続き肥後医育振興会からのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

